

令和4年度旭川未来会議2030環境分野 第1回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和4年7月21日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所 旭川市第二庁舎3階 健康相談室
(旭川市7条通10丁目)

3 出席者(参加者)

朝倉 優美香, 鹿島 浩平, 菊池 佳, 久保 澄佳, 佐藤 靖隆,
中村 和子, 橋口 新平, 藤山 大樹, 吉田 小夏

※敬称略, 五十音順

※北沢 侑也は欠席

4 出席者(市側)

(運営事務局)

環境部 富岡部長, 松野郷次長

環境総務課 安富主幹, 宮田環境保全係主査, 本多環境保全係主査,
環境保全係岩崎

廃棄物政策課 小池課長, 狩野計画係長

(統括事務局ほか)

広報広聴課 中屋課長, 乙坂広聴係主査

政策調整課 廣岡主査

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 なし

7 意見交換

※進行役: 菊池 佳

(1) 議題「ゼロカーボンシティ旭川の実現と食品ロスの削減等について」

※ まず, 参加者全員により「環境分野が考える2030年の旭川のあるべき姿」について,
アイデアを付箋に記入する方法によりアイデア出しを行った。

※ 次に, 出されたアイデアを,

(A) 食品ロス, (B) ごみ・廃棄物分野, (C) 交通,

(D) エネルギー・ゼロカーボン, (E) 自然環境,

(F) 環境教育, (G) その他

の7つの分野に分類した。

※次に、参加者を

(A) 食品ロス, (B) ごみ・廃棄物分野, (C) 交通,
の3人ずつの3つのグループに分け, それぞれのグループが検討を行い,
その後, それぞれのグループから次のとおり発表を行い, それに対して,
グループ以外の参加者から意見を聴取した。

※発表内容

A 食品ロス分野

(あるべき姿)

- ① 農家と消費者の架け橋となる仕組みを作る
- ② 飲食店などでの食べ残し対策は楽しく前向きに取り組める制度を作る
- ③ 環境スポット的なものを作る

(考えた理由)

- ① 規格外の野菜などを消費者が購入や活用できる仕組みづくりがあれば, 食品ロスも減るし農家には生産に集中してもらうことができる。
- ② マイバッグなどの取組はどうしてもやらされている感がある。例えばポイント付与などあれば前向きに取り組めるのではないか。
- ③ 例えば, ビーガンカフェや量り売りのスーパーが入居するような施設があればフードロスや地産地消, 環境問題の普及啓発にも繋がるのではないか。

(その他の人からの意見)

- 給食でベジタリアンデーを作る

(考えた理由)

- ・ 規格外品の野菜を活用できることに加え, 肉を使用しない事による二酸化炭素排出減少にも繋がる。

B ごみ・廃棄物分野

(あるべき姿)

- ① 燃やせないごみ袋の廃止
- ② 自動販売の脱ペットボトル
- ③ 中心街からごみをなくす

(考えた理由)

- ① 燃やせないごみ袋を廃止することで, 今まで燃やせないごみとして埋立処分されていた資源物のリサイクルと焼却が進むと考えるから。
- ② 自動販売機の飲み物をマイボトルへの充填方式にすれば排出されるペットボトルが減少

するのではないか。

- ③ ごみが散乱することでカラスによるごみ飛散や更に新しいごみのポイ捨てを誘因するから、そもそも中心街をきれいに維持すればよいのではないか。
ごみのポイ捨てを罰金化したら良いのではないか。

(その他の人からの意見)

- 堆肥化の推進などで生ごみを減らしたい

(考えた理由)

- ・ ごみの減少はもちろんのこと、生ごみは水分を多く含んでいることから、輸送コスト増加や焼却時の燃焼効率低下という問題にも寄与する。

C 交通分野

(あるべき姿)

- ① 高齢者、若者にやさしい公共交通機関の整備
② 歩きたくなるまち、自転車に乗りたくなるまち

(考えた理由)

- ① 公共交通機関が「早い、安い、きれい」になり利用しやすくなり、高齢者や若者の利便性が向上することはまちとして重要である。二酸化炭素排出抑制にもなる。
② 徒歩や自転車が多く利用されるヨーロッパ型のまちづくりになると、二酸化炭素排出が抑制される。

(その他の人からの意見)

- 無人駅を活用してはどうか

(考えた理由)

- ・ 人が来ると公共交通機関の利用が促進される。

(その他の人からの意見)

- 「歩こう月間」のような取組を実施してはどうか

(考えた理由)

- ・ 特典を与えるような取組を実施することで歩きたくなるまちにつなげる。